



山田順二さん（昭和56年度入学）
JCAFE 副代表

Q 現在のお仕事について教えてください。

NPO法人市民コンピュータコミュニケーション研究会（JCAFE）でコンピュータの技術者をしています。

主にインターネットのサーバーの管理、ユーザーサポート、システム開発をしています。ちなみに、今は、ホームページのウェブサイトを簡単に更新できるようにソフトウェアの開発に取り組んでいます。そのソフトウェアは名付けて「すぐ楽ウェブ！」簡単そうでしょう（笑）。

Q 現在の仕事を始めたきっかけは何ですか？

そもそも私がパソコン通信に興味を持ち始めたのは、岡部和明著の『パソコン市民ネットワーク』という本を読んだことがきっかけです。この本で、コンピュータのネットワークを利用して、活動を広げている市民団体があることを知り、その必要性を感じることも、自分もやってみたくと思いうようになりました。当時、インターネットを市民活動で活用しようという取り組みは少なかつたんです。そこで、私以外にもその必要性を感じていた人たちが全国から集まって、今勤めている市民コンピュータコミュニケーション研究会（JCAFE）を設立しました。

Q JCAFEとはどのような団体なのですか？

JCAFEは市民団体やNPOのコンピュータやインターネット利用を支援するNPOです。現在は企業中心の社会ですが、われわれの活動を通じて、いろいろな市民団体やNPOも、政府や企業に対してもっと力を発揮できる社会を作るという大きな目的があります。

自分が仕事をするなら、世界を少しは住みやすい所にした。そのために小さな住

事を日々やっているわけです。目的に近づくのは簡単ではないですけど、まずは彼らの情報発信能力やコミュニケーション能力が高まるよう、小さな仕事からやっています。

Q NPOで働くようになった経緯を教えてください。

大学卒業後はすぐに廃棄物コンサルタントの契約社員になりました。契約社員になったのは、ボランティアとか仕事以外にやりたいことをするための自由がほしかったから。

例えば、大企業に入ると、収入はいいけど転勤があるし、勤務時間が長くて自分の時間が少なくなりますよね。ボランティア活動をすると時間がしつかりとれないんです。今している、人の助けになる仕事っていうのは、ストレスを感じることもあるし、充実しているとはかりは言えないけど、他の会社にいるよりは、精神的に充実していますね。

Q ボランティアの魅力は？

若いころは正義感でボランティアをやっていたのかもしれませんが、いまは楽しい。



亀川未来子さん(平成10年度入学)
東広島商工会議所

☆商工会議所について

東広島商工会議所で働いています。仕事内容は商工会議所の企画やイベントの案内を出したり、取りまとめたりという主に事務の仕事です。実際に何かをつくっているというわけではないので、目に見える成果は示しにくいですね。形になっている仕事としては、業種ごとの報告書を作成することです。

そもそも、商工会議所がどんなものかいメージしにくいでしょう(笑)。私も入るまではわかりませんでした。商工会議所は、東広島で事業をされている会員の方を対象にしている団体です。会員には個人で

あれ、法人であれ、東広島で事業をしていればなることができます。会員以外の方が参加できる催しも行ないますが、会員を主な対象としたものがほとんどなので、市民の方々にとっては商工会議所が身近なものとはいえないかもしれませんね。会議所が開催するものとして、例えば、会員を対象とした講演会が年に何回か開かれて、著名人を招くこともあります。また市と協議する場をもって、駅前開発にも関わっています。

そのほかにも、簿記や販売士の検定をやっている、検定のための講習会も開いています。これは会員以外の方も参加できますよ。

学生生活

☆総合科学部について

外国語コースに所属し、ドイツ語専攻でした。元々語学が好きだったので、総合科学部に入学する前から外国語コースに行くかと思っていました。実際に入ってみると、『総合科学部は、エキスパートを育てる学部ではなく、ジュネラリストを育てる学部』だと聞いて、ショックでしたね。でも理系

と文系の人と一緒に勉強するので、さまざまな種類の人間と付き合えて面白いし、いろいろな話も聞けたので、そこはすごくよかったです。

☆ドイツ留学

私は一年の夏休みはイギリスに英語を勉強しに行って、三年の前期にはドイツの語学学校に留学しました。もともとは四年で卒業する予定だったのですが、留学の制度があることを知って、またドイツに留学しました。結局卒業が一年遅くなりましたが、行ってよかったと思います。

ドイツにいたときには暇を見つけてはヨーロッパ各地を旅行しました。ヨーロッパは、他の国と陸続きになっていて、電車やバスですぐに外国に行けます。日本から行くともたお金がかかるので、ドイツにいるうちに、時間がある限り行こうって感じでした。治安も全体的によかったんですが、唯一スペインに行った時にひったくりにあってしまったのは辛かったです。

留学してドイツは、日本人にとって住みやすい所だと感じました。ドイツ人は、すぐには人に心を開かない、少し内向的な部分があり、このあたりは日本人と似ていま

すね。

外国に行くとは自分は日本人だっということをすごく感じます。見た目もみんな違し、文化や性格も違し、日本人としての自分のアイデンティティを強く感じました。

☆留学して得たもの

留学すると視野が広がります。他の国の人も友達になれるし、その国の文化を知ることができし、その国の抱える問題も分かっていきます。政治に関する話もその国の友達から聞けて興味深かったですね。

ドイツで友達になった人や、お世話になった人とは今でも時どき連絡を取っています。会いに行きたいとは思っていません。学生時代には時間はあるけどお金がない。働き始めると、お金はあるけど時間がないです。休みがとれないので、卒業後はドイツに行く機会はほとんどないです。

☆社会人になって

私は五年間西条で学生生活を送ってきた、その後もこの町で働いているのですが、社会に出てから西条を見る視点が変わりましたね。

学生時代は学生生活を送ってきたので、町の発展なんて全然興味なくて。商工会議所で働き始めて、駅前の開発に関わって活躍している学生がいることを知ると、学生時代にもっとやれることがあったんじゃないかなと感じます。

市役所や商工会議所には広大出身の人が結構いますが、大学卒業後は地元に戻ったり、都会に行く人も多いように思います。西条が広大生にとって、もっと留まりたいと思えるような魅力的な町になったらいいですね。

学生にアドバイス

時間がいっぱいあるので好きなことをやって視野を広げて欲しいです。そのために、学生のとくにしか出来ない旅行をする時間や、人との関わり合いをたくさんもって下さい。とくに語学を勉強する人には、ぜひ留学をしてほしいですね。

働き出してから地域との関わりは出来るかもしれないですけど、色々なしがらみもあり、なかなか動きが取りにくいという面もあります。学生という自由な立場にある時に、住んでいる地域との関わりをしつ

かり持つて欲しいですね。学生の時の経験が将来一番役立つと思うので、大切にしてもらえたらと思います。



取材風景
～レストランにて～

(担当) 17生 斎藤佑亮

このコーナーは他、16生 西川史保子
廣川千恵 森尾陽一が担当しました。